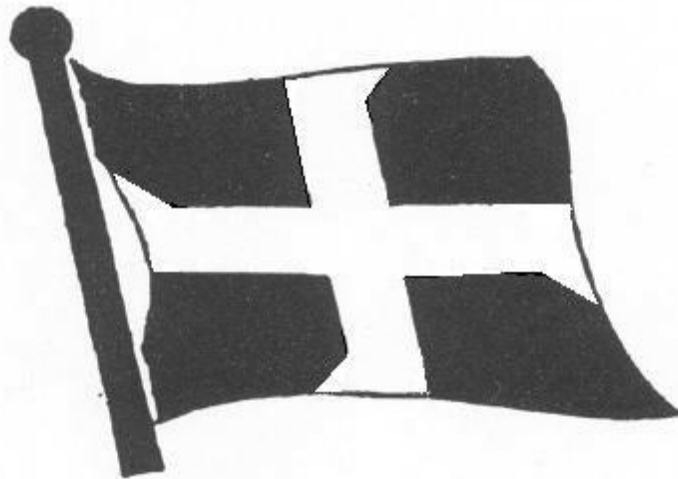


蒼穹 NEWS

No.3

七大戦展望号

平成 27 年 7 月 27 日発行



～目次～

- 1 主将挨拶、女子主将挨拶、監督挨拶
- 2 七大戦競技日程
- 3 七大戦展望
- 4 記録会等の結果

主将挨拶

8/1,2に仙台市陸上競技場にて開催されます。関西インカレで目標の総合5位を達成し勢いがあつた我々京都大学陸上競技部でしたが、続く全日本大学駅伝予選会では4位と4.67秒差で5位となり全日本大学駅伝の切符を逃してしまいました。その事実は部員にとってひどく悲しいもので、涙を流しているものもありました。そのような結果で伊勢予選を終えたときに、私たちは七大戦は絶対に優勝しようとして全員で誓いました。大きな対校戦で負けてしまうことの悔しさを伊勢予選で学び、もう二度とこのような悔しさを味わいたくないと思いました。私たちはまた、七大戦で勝つことによって得られる喜びがものすごく大きいことを2年前の七大戦で知りました。その喜びをもう一度、味わいたいと思っています。この2つの感情をもって我々は七大戦へ向かいます。伊勢予選を終えてから、七大戦で男女総合優勝をすることだけを考えて部員全員練習に励んで来ました。その成果をここで思う存分発揮しようと思えます。当日は近年まれにみる激戦になることは間違いありませんが、出場する選手出場しない選手関わらず、全員が自分の役割を果たし、必ずや男女総合優勝を成し遂げて見せます。当日は猛暑が予想されますが、蒼穹会の皆様にはぜひとも遠方ではありますが東北まで足を運んでいただき、いつもと変わらぬ熱きご声援のほどよろしくお願い致します。

京都大学陸上競技部主将 石田真也

女子主将挨拶

昨年の七大戦は、優勝を目指してチーム全員で必死に練習を重ねてきたにも関わらず、台風の影響により中止を余儀なくされるという非常に残念な結果となり、とても悔しい思いをしました。あの日から一年、私達は昨年成し遂げる事の出来なかった大きな目標を達成すべく、日々努力して参りました。

本年は、圧倒的なエースはおらず、また、上回生も大変少ないという厳しいチーム状況ではありますが、一年間、チーム全体のレベルの底上げを目標に練習を重ね、着実に力をつけて参りました。また、有望な新入生の加入により、どの種目も選手層が厚くなり、一層バランスのとれたチームとなりました。

毎年同様、たった一点が勝負を左右し、取りこぼしは決して許されない、厳しい戦いが予想されますが、どの種目においても、各々が確実に目標通りのパフォーマンスをし、チーム一丸となって持てる力を存分に発揮すれば、結果は必ずついてくると信じております。本年は、遠方東北での開催ではありますが、蒼穹会の皆様はもちろんのこと、女子部卒の皆様にも足を運んでいただけると幸いです。激励、ご声援のほど、よろしくお願い致します。

京都大学陸上競技部女子主将 藤森光世

監督挨拶

七大会戦が目の前に迫ってきました。昨年は台風によって中止を余儀なくされました。2年分の想いを背負って部員一同試合に臨みます。今年度は8月1日、2日に東北大学の主管で仙台市陸上競技場にて行われます。

今年に関西インカレでは男子は1部総合5位と見事目標を達成しましたが、対照的に全日本大学駅伝の予選会ではわずか4秒67の差で涙を呑むこととなりました。

男子は連覇を狙います。事前予想では東大が頭ひとつ飛び抜けています。このような試合で大切なのは全選手が1点でも多くとるという強い気持ちを持って臨むことです。その積み重ねが京大に大きな流れを引き寄せることとなります。東大との差はそこまで大きいものではありません。我々は前回覇者です。勝ち方をわかっています。あとは自信を持ってベストを尽くすのみです。

女子は阪大と名大が圧倒的な戦力を見せています。しかし女子は男子よりも混戦になることが多く、また優勝のためのプランも夢物語ではありません。十分に可能性はあります。不足していた種目への新人の加入もありました。優勝へのピースはそろっています。昨年の東大会のような粘りを見せて、勝ちに行きます。

蒼穹会の皆様方、仙台という遠い場所ではありますが、是非とも会場までお越しいただき、ご声援頂きますようお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 西村優汰

・七大戦競技日程

8月1日(土) オープンの部 (競歩は対校) 仙台市陸上競技場

8月2日(日) 対校の部 仙台市陸上競技場

トラックの部

<TRACK>

開始時刻	種別	種目	
9:00	開会式		
9:30	男	3000mSC	決
9:50	女	400m	予
10:05	男	400m	予
10:30	男	400mH	予
10:55	女	100m	予
11:05	男	100m	予
11:25	男	1500m	決
12:00	男	400m	決
12:15	男	110mH	予
12:30	女	100m	決
12:40	男	100m	決
12:50	女	800m	決
13:00	男	800m	予
13:35	男	400mH	決
13:45	男	200m	予
14:00	女	3000m	決
14:20	男	4x100mR	決
14:30	女	400m	決
14:45	男	800m	決
15:00	男	110mH	決
15:10	男	200m	決
15:20	男	5000m	決
15:45	女	4x100mR	決
15:55	男	4x400mR	決
競技終了後	閉会式		

フィールドの部

<JUMP>

開始時刻	種別	種目	
10:00	女	走高跳	決
10:00	男	走幅跳	決
10:30	男	棒高跳	決
12:00	男	走高跳	決
12:00	女	走幅跳	決
13:30	男	三段跳	決
<THROW>			
開始時刻	種別	種目	
10:00	男	砲丸投	決
11:30	男	やり投	決
12:00	女	砲丸投	決
13:00	男	円盤投	決
14:30	男	ハンマー投	決

400m

庄司 真 (5) 48.82

辻 智彦 (4) 50.61

岡部 龍樹 (3) 50.26

400mには庄司、辻、岡部が出場予定であるが、辻は怪我から復調しきれておらず眞杉が出場することも考えられる。庄司は先日の大阪選手権で自己ベストを出し、得点圏内に入った。昨年度主将として七大で走れなかった悔しさをここでぶつけてくれるだろう。岡部も今シーズン好調であり順々に記録を上げ自己ベストを更新している。この波に乗って七大でも自己ベスト更新及び得点を期待したい。今年の400mは例年になくハイレベルであり、得点するには49秒フラットあたりが必要となる。厳しい戦いとなるが十二分に力を発揮し、1点でも多く得点をもぎ取ってほしい。

110mH

佐藤 優斗 (4) 15.23

松下 隼人 (3) 15.93

田中 伸幸 (2) 15.67

この種目の決勝ラインは15"1~2程度と思われる。そこに付け込むチャンスがあるのがまず佐藤だ。今シーズン15"23のベストを出し、その後も15"25.15"30とその付近で安定したタイムを出している。七大戦でもそれぐらいの実力を出しければ決勝進出のチャンスが見えてくる。なんとか決勝に進出し、決勝で戦ってほしい。田中も今シーズンベストを更新し、京都インカレでは追い風参考ながら15"4で走った。ベストを出さなければ決勝進出は無いが、持ち前のキレのあるハードリングで爆発に期待したい。松下は今シーズンはまだ16秒台でしか走っていない。また走幅跳、三段跳との複数出場であるが、本人の強い意志のもと出場となった。大ベストを出さない限り決勝進出は無いが、七大戦に向けて精力的にハードル練習を行っている。

る。善戦に期待したい。

400mH

佐藤 優斗 (4) 53.72

長崎 裕貴 (4) 55.66

新村 航輝 (3) 54.57

年々レベルが上がってきているこの種目であるが今年もそうだとはいえよう。日本インカレ出場者、西日本インカレファイナリスト、インターハイ3位のルーキーなど、ここ数年では最高のレベルといえよう。決勝ラインは54秒中盤ぐらいか。佐藤はランキング4番であり今年も安定した記録を残している。確実に予選を通過し表彰台を目指してほしい。新村は決勝ラインギリギリの位置にいる。今年400mでベストを更新し、走力は確実に向上している。問題のハードルであるがそれについても試行錯誤しながら練習に取り組んでいる。なんとか決勝に残り決勝の舞台で勝負してもらいたい。長崎は4回生にして念願の七大戦デビューである。決勝進出には1秒以上のベスト更新が求められるが、走力も確実に上がっており持ち前のハードリングでなんとか善戦してもらいたい。

4×100mR

石田 真也 (4)

林 大祐 (4)

紀平 直人 (3)

備藤 翼 (3)

走順は1備藤ー2石田ー3紀平ー4林です。一走の備藤は昨冬から今春にかけて故障で思うように走れませんでした。最近になって以前にも増したキレを取り戻しつつあります。また、この七大戦ではこの種目だけの出場なので、疲れもなく全力を出すことができます。石田と紀平は200mの予選を走りおえて35分後の競技となりますが、石田は200mの予選で力を温存し、紀平は持ち前の体力でカバーすることを考慮するとまったく問題はありませぬ。林で

すが、午前に走り幅跳びをおえてからの競技となるので、体力面では問題ありません。加速区間ではまわりと同じくらいですが、最大スピードと後半の粘りでは他大の実力が上の選手にも引けを取らないフィジカルの持ち主です。1位でバトンを渡せば間違いなく1位でゴールしてくれるでしょう。ライバルとなるのは間違いなく東大、阪大です。特に東大は学部生だけで既に今年3度も40"7台で走っています。七大戦で40秒台を出すことは間違いなくと思います。しかし、他大の選手は種目の掛け持ちが多く、この4継で100%の力を発揮することは難しいです。七大戦のそういった部分も大いに戦略として利用して、競り勝ち、優勝します。

4×400mR

- 辻 智彦 (4)
新村 航輝 (3)
岡部 龍樹 (3)
紀平 直人 (3)
土屋 佑太 (3)
眞杉 陸 (2)

関カレで全カレ標準を切りランキングではトップであるが東大、名大、阪大がすぐ後ろに続いており混戦が予想される。走順は紀平・新村・岡部・土屋を予定しているが、状況次第で櫻井または辻、佐藤、眞杉が走ることも考えられる。優勝タイムは3分15秒程度と思われる、万全の状態であればそれほど厳しいタイムではないが、紀平、土屋は200mにも出場し、200決勝とマイルの間隔が50分と短いことから二人の回復の具合によって勝負が左右されると言えるだろう。ともあれ力はこちらが1枚上手なので、出場する4人には自信を持ってレースに臨んでもらいたい。

女子 100m

- 山中 遥加 (3) 13.71
小野 萌子 (1) NM

女子 100m には短短専門の山中と1回生の小野が出場する。今期やや出遅れた山中も、シーズンに入ってから、自分の走りをしっかり分析し修正を重ねて、確実に調子をあげてきており、七大戦当日は自己ベスト更新に期待がかかる。1回生の小野は春からしっかりと練習が積めており、最も勢いのある新入生の一人である。今年の女子 100m はレベルが高く、決勝進出には遅くても13秒10前後のタイムが必要と予想される。得点を取るには12秒台を出すことがおそらく不可欠で、厳しい戦いが予想されるが、2人ともまずは決勝進出を目指して、チームを勢いづける力強いレースを見せてほしい。

女子 400m

- 藤森 光世 (4) 61.89
坂上 小百合(3) 61.48

女子 400m には藤森と坂上が出場する。藤森は、大学では400mの試合経験は少ないが、七大戦に向けて、しっかりと短長の練習を積んできた。短短専門としてのスピードを活かして、最後の七大戦、どんどん攻める意地のレースを見せてほしい。坂上は短長選手として、冬場からしっかりと走力をつけてきた。シーズンに入ってから、スピードを意識した練習も取り入れており、大幅なベスト更新に期待がかかる。

坂上が6番手、藤森が8番手と、2人ともボーダーライン上におり、まずは確実に決勝進出することが最重要課題である。決勝では、阪大と東大の選手が59秒前半で走ることが予想されるが、3位以降は各大学の選手の他種目との兼ね合いを考えると、60秒前半～後半のタイムになることも考えられるため、得点争いにしっかりとくい込んでほしい。

女子 4×100mR

宮崎 伶菜 (5)

藤森 光世 (4)

金澤 和寿美(3)

山中 遥加 (3)

坂上 小百合(3)

完山 聖奈 (1)

オーダーは完山-金澤-藤森-山中の順。女子の最終種目であり、例年の様子から考えて、リレーの得点が総合順位を大きく左右することが考えられる。今季の記録では4番手ではあるが、1回生の完山を加えてのまだ新しいチームであり、シーズンに入って一人一人の調子も確実に上がってきたことを考えると、50秒前半、表彰台も十分に目指せる。まずは確実にバトンをつなぎ、実力通りのリレーをすることを大切にしたい。どの大学も今季の記録を大幅に更新してくる可能性も大いにあり、全く油断のできない種目であるが、表彰台を目指してバトンをつなぐ。

< 中距離 >

800m

櫻井 大介 (4) 1.48.48

市川 和也 (4) 1.55.57

友田 浩平 (2) 1.56.33

今年は優勝タイム、入賞ラインともに七大戦史上最高となること必須のこの種目。往々にしてランキング通りにはいかない800mで東大、阪大を破ることが総合優勝に向けての条件となるか。この種目唯一にして最大の優勝候補は櫻井だ。七大戦で負けを知らない櫻井、最後のこの試合にどんな言い訳も許されない。圧倒的な勝利が期待される。言い訳ができないのは市川も同じ。1.54.40の自己ベストを持つ彼は4回生の意地を見せることができるか。3位から入賞ラインまでがおよそ1秒の中にひし

めく。同格相手に市川の勝負強さが問われる。今期、なかなか思ったような結果を出せない友田は今回も格上相手のレースとなるが手の届かない範囲ではない。2年前決勝ラインに食い込んだ市川のような走りを期待したい。京大のお家芸といえるこの種目を継承する存在となれ。



絶好調の櫻井。目指すは優勝のみ

1500m

平井 健太郎(4) 3.53.13

寶 雄也 (4) 4.03.00

足立 涼 (3) 3.53.31

得点ラインは3.57とハイレベル。だが、様々なタイプの選手が各校いるだけに如何に京大がレースの主導権を握れるか。それだけの力を持つ選手が今年は揃った。七大1種目となる平井。今シーズン最初の不調からは脱してきている。なにより、彼の負けず嫌いはホンモノだ。執念で体を動かす。そして、先日ついに全カレの標準記録を突破した1500mエース足立。ランキン

グトップで臨むこのレース、彼の真価が試される。優勝は容易ではないが、自信を持って勝ち切ってほしい。あとひとりを賣か岡野どちらを起用するかは直前に決める。京大長距離屈指のスピードを持ち4回生の意地を見せたい賣と、今期不調ながらここにきて調子を上げてきた岡野。どちらも得点ラインになんとか切り込みたい。ここで大量得点し、一気に勢いをつける。

女子 800m

岸本 絵理 (2) 2.22.00

岡本 萌巴美(2) 2.34.05

14名が一斉スタートする女子800m。2回生コンビが揃って初の七大戦の大舞台に臨む。今期、大ブレイク一歩手前というところの事前ランキング3位岸本。ランキング下位の選手に勝つのも容易ではないが更に上位を狙ってこそブレイクにつながるか。今期磨いたスピードを生かして最後の1mまで粘り抜きタイムも順位も狙う。もう一人は今期復活の岡本。まだまだ回復、成長途上なだけに大幅なシーズンベストの更新がありうる。今年は得点ラインには遠い。が、このトラックの舞台に戻ってきた喜びを噛みしめて気迫のこもった走りここで合わせてきたことを七大学に知らしめたい。2人ともまだ失うものは何もない。どれだけ思い切った走りができるのか。

<長距離>

5000m

平井 健太郎(4) 14.00.13

下迫田 啓太(4) 14.44.20

柴田 裕平 (2) 14.51.23

男子5000mは下迫田、平井、柴田が出場する。三選手とも予選会の苦い経験を経て、競技への姿勢を一から見直し、ここまで準備してきた。仕上がりは順調であり、一回り成長した姿を披露してくれるはずだ。近藤(東大・1)がPB14分21秒と二番手筆頭であるが、それ以外は14分45秒か

ら14分59秒で固まっている。1、3、4位を確保し、京大に大量得点をもたらしていく。



1500m,5000mに出場する平井。二冠なるか。

3000mSC

岡本 和晃 (4) 9.12.81

長谷川 大智(1) 9.35.95

二日目の先陣を切って行われる男子3000mSCには岡本とルーキー長谷川を起用する。岡本は関西インカレで、正に『最上級生の意地』と形容するに相応しい走りを披露してくれた。5月に比べるとやや体調は落としているが、PB9分12秒はランキングトップであり、精神的にも安定している。チームのため、自分のため、貪欲に初タイトルを狙っていく。長谷川はルーキーながら真摯な姿勢で競技に取り組み、チームに活力をもたらしている。試合、練習ともに安定して結果を残しており、本番ではPB(9分30秒)を更新しての二位を目指す。大量得点が見込める種目であり、大きな期待がかかる。

5000mW

山西 利和 (2) 19.43.90

今年から待望の対校種目となった男子5000mWには山西が出場する。持ち記録、実績ともに山西に並ぶものはおらず優勝は堅いと思われる。一日目唯一の対校種目で京大の強さを見せつけ、総合優勝へ向けて好スタートを切りたい。

女子 3000m

小堂 夏希 (3) 10.44.35

増田 茄也子(1) NM

女子3000mには小堂(3)、増田(1)が出場する。当日の気温やレース展開にもよるが、得点ラインは10'30"前後と予想される。出場選手のベストタイムはかたまっているため、誰が点を取ってもおかしくない接戦となるだろう。小堂(3)は今年度、中長女子最高学年になった。厳しいレースになるがその意地をみせて、1点をもぎ取りたい。増田(1)は初めての対校戦。不安もあるだろうが、守りに入らず攻めの走り勝負にこだわってほしい。

< 跳躍 >

走幅跳

石田 真也 (4) 7m31

林 大祐 (4) 6m90

松下 隼人 (3) 6m75

男子走幅跳はこれまでに類を見ないほど高レベルな戦いになることが予想される。今シーズンベスト連発の石田はまだまだ伸び盛りである。今回もベストを更新して優勝を奪い取ってくれるだろう。そして次に控える林もこれまでの苦難をバネに今シーズン記録を伸ばし続け、点を狙えるところまで来た。当日のジャンプはその集大成。期待しよう。松下は今ランキング上位に属していないが、2年前の七大戦では一回生ながらこの種目で得点した男である。京大が優勝するためにも、ここでもう一度あの

ジャンプを期待したい。

三段跳

山岡 隆央 (4) 14m98

田中 智章 (4) 13m86

松下 隼人 (3) 13m08

三段跳も実力ある選手が増え、得点ラインは14m20から30ほどになると予想される。山岡は近頃ベストを伸ばしランキング1位に躍り出た。ならば優勝するしかない。期待していただきたい。田中はこの時のために自分の動きを見つめ直し、修正してきた。悲願の14m、そして得点ラインへむけ、人生最高のジャンプをしてくれるだろう。松下は計三種目出場するが、三段跳の練習もしっかり欠かさずこなしてきた。必ずやベストを跳び、京大を盛り上げてくれるだろう。



昨日自己ベストを更新しランキングトップとなった山岡。

走高跳

扇澤 剛志 (5) 1m80

竹田 風馬 (2) 1m85

五十嵐 隆皓(1) 1m75

走高跳は1m85から90だと考えられる得点圏に多くの選手が集まっており、一本一本を大切にできるかが重要となる。扇澤はこれまでの1年で自分のフォームを改善してきた。後はそれをそのまま試合で行うのみである。これまでの経験を上手く活かせば得点争いに絡むことも夢ではないだろう。竹田は3人の中で最も得点に近い。自己ベストタイはもう跳び飽きたであろう。大量得点を視野に、一発でベストを跳んでもらいたい。五十嵐は大学初の対校戦となる。変に気負ったりせず、自分にできる最高のパフォーマンスをすることだけ考えて試合に臨んでほしい。

棒高跳

小野坂 健 (3) 2m90

澤 薫 (2) 4m20

珍坂 涼太 (2) NM

男子棒高跳には小野坂、澤、珍坂が出場する。小野坂と珍坂は最近になって棒高跳を始めた初心者であるが、どちらもこれまで必死になって練習を積み、劇的な成長を遂げてきた。当日は持ち記録なんて参考にならない跳躍を見せてくれるだろう。そして澤だが、彼は高校時代4m70を跳んでいる。ランキング上は得点圏外であるが、彼がこの種目のダークホースとなるのは間違いないだろう。

女子走幅跳

金澤 和寿美(3) 5m06

完山 聖奈 (1) 4m87

女子走幅跳は得点するためには5m10ほど跳ぶ必要があると予想される。金澤は自己ベストを出せば優勝も十分狙えるだろう。

どんな時でも攻めの姿勢を忘れず、1本目で勝負を決めるつもりで臨んでほしい。完山は走幅跳経験は浅いが、走力のある選手である。自分の長所を殺さず跳べば5mも簡単に跳べるであろう。ビックジャンプをして皆を驚かせてもらいたい。

女子走高跳

中尾 優里 (5) NM

林 玲美 (1) NM

女子走高跳は少しレベルが上がり、必ず得点するためには1m50を跳ぶ必要があるだろう。中尾は一度は引退したが、この日のために帰ってきた。もう一度七大戦という舞台で戦うために。その気持ちの入ったパフォーマンスは京大に勢いを与えてくれるに違いない。林は高校時代1m60越えのベストをもつ。まだ本調子ではないが、今できることをすれば得点は確実であろう。中尾とともに走高跳で京大旋風を巻き起こしてほしい。

<投擲>

砲丸投

山本 裕太 (4) 11m30

山下 圭二 (3) 8m89

浅野 智司 (2) 7m23

男子砲丸投には山本、山下(圭)、浅野が出場する。ライバルとなる東京大にベスト記録が12mを越える選手が2人おり、厳しい戦いを強いられる。山本は6月末の記録会でベスト記録を更新しており、勢いそのままに、その選手らに何とか食らいついて上位入賞を果たしたい。山下圭、浅野に関しては砲丸の出場機会が少ないが、これからの投擲パートを支えていく2人なので、この舞台で10mを投げて、同大会のこれ以後の種目、また来年以降の七大に繋げていきたい。

円盤投

若園 直樹 (4) 30m08

山下 圭二 (3) 31m93

金子 溪人 (2) 31m55

男子円盤投には若園、山下(圭)、金子が出場する。今季記録のランキングでは、3人とも決勝進出ライン上にいる。若園は円盤を専門とする選手ではないが、爆発力のある選手なので、当日大ベストを投げて得点に絡んで欲しい。金子は非常に投擲センスのある選手であるので自信を持って思い切って自分の力を出し切って欲しい。最後に山下であるが、練習では34~35mを投げており、上位入賞する実力は十分にある。ランキングを大きく覆して上位入賞を果たし、七大戦優勝の立役者となって欲しい。

ハンマー投

若園 直樹 (4) 41m19

林 大祐 (4) 36m19

浅野 智司 (2) 25m54

男子ハンマー投には林(大)、若園、浅野が出場する。まず若園であるが、ランキングでも実力でも文句無しの優勝候補である。3種目であり、プレッシャーのかかる試合であるが、ここで確実に優勝を決めたい。林はスプリント種目でも跳躍種目でもベストを更新しており非常にいい状態で七大戦に臨む。40mに迫る投擲を見せ、若園と共にワンツーを飾って欲しい。最後に浅野であるが、最近めきめきと実力を伸ばしている。決勝進出ラインはそれほど高くないので、大幅に自己ベストを更新し決勝に駒を進めたい。

やり投

山本 裕太 (4) 58m56

若園 直樹 (4) 51m84

中山 奎吾 (1) 54m13

男子やり投には山本、若園、中山が出場す

る。大阪大に60m以上を投げる選手が2人、東京大に1人おり、上位は60m付近で混戦となるだろう。京都インカレで58mを投げている山本、インターハイ出場経験を持ちベスト記録59mの中山は、この厳しい戦いの中でベスト記録を更新し、表彰台を目指したい。若園は腰に不安があるものの、一昨年七大戦でベストを投げており、相性のいい試合だと思うので、ここで55m以上投げて得点に絡み、3人全員得点して高得点を狙いたい。

女子砲丸投

川崎 仁美 (2) 7m67

横山 優花 (1) 7m66

女子砲丸投には川崎(仁)、横山(優)が出場する。川崎は器用な選手であり、またウエイトも積極的にを行い筋力増強にも励んでいる。自己ベストを更新し決勝進出を目標としたい。次に横山であるが、練習で非常にいい投擲を見せている。初めての対校戦、初めての七大戦となるが、臆せず自分の投擲をして得点に絡んで欲しい。

・記録会等の結果

この度、体育会サーバーのアクセス遮断に伴いまして陸上部 HP の記録 HP の編集ができなくなっています。データベースとして記録の保存はしておりますがそれを文書化することが困難なため今回の蒼穹ニュースにおける記録の掲載は割愛させていただきます。次回、東大戦展望号にてまとめて掲載させていただくつもりですのでどうかご了承ください。以下、6月15日以降に誕生した蒼穹新記録のみ取り急ぎ掲載させていただきます。

櫻井 大介 (4)

800m 1.48.48

PB、蒼穹新、関西学生新、西日本学生新

ホクレンディスタンスチャレンジ北見大会 7月12日

平井 健太郎(4)

5000m 14.00.13

PB、蒼穹新

ホクレンディスタンスチャレンジ北見大会 7月12日



蒼穹ニュース 平成27年度 第3号
平成27年7月27日発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部
編集者：川崎皓斗・永岡源太郎・山下弘輝（副務）
特別協力：阿邊啓明・宮垣寛之（学連員）
 清水良輔（記録係）・佐藤啓太（HP 係）
写真担当：竹田風馬・田中雄也・林聖也

陸上競技部 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/>
陸上競技部記録 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/kiroku/index.htm>
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>
メールアドレス kutf.hukumu@gmail.com（永岡）